



Heinrich Schütz(1585-1672)



Dieterich Buxtehude(1637-1707)

ご挨拶

本日はお忙しい中をご来場賜り、厚くお礼申し上げます。

今回は、ブクステフーデの美しい名曲「わたしたちのイエスの四肢」に、シュッツの「宗教合唱曲集」から抜粋した2曲を添えて演奏することと致しました。

この合唱団も創立後30年を超え、80名もいた団員が最小では11名まで減少した事があるにも拘わらず、解散もせずに何とか存続し、本年は14名の団員で演奏会を開催出来ますことは、東京アマデウス合唱団にとって、この上ない喜びであります。

また、この合唱団のためにご来場頂く皆様方からの、継続した温かいご支援と励ましに支えられ、この演奏会を開催できることを大変嬉しく思っております。

今回は、会場が狭く座席数は少ないのですが、音響効果の良い「同仁キリスト教会礼拝堂」で演奏する運びとなりました。

名曲の響きを楽しんで頂ける様な演奏が出来ましたら幸いです。

東京アマデウス合唱団 団長 柿沼 哲

PROFILE

指揮 水野 克彦



東京藝術大学卒業。
ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。
オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。
藝大バッハカンタータクラブに在籍中、小林道夫氏の薫陶を受ける。
日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。
現在、茗荷谷キリスト教会オルガニスト。

Symphonia Fons Harmoniae

ヴァイオリンⅠ 海保あけみ



東京藝術大学卒業。
ヴァイオリンを正岡紘子、山岡耕彦、日高毅の各氏に、室内楽を黒沼俊夫氏に師事。
また、藝大バッハ・カンタータ・クラブにて、小林道夫氏の指導を受ける。
現在フリーの演奏家として室内楽・オーケストラ等の演奏を中心に活動中。
本日の伴奏「Symphonia Fons Harmoniae」のチーフ。

ヴァイオリンⅡ 片桐 恵里



東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修了。
埼玉県新人演奏会に出演。
ヴァイオリンを掛谷洋三、浦川宜也の各氏に、室内楽をピュイグ・ロジェ、ルイ・グレーラーの各氏に師事。
東京ハルモニア室内オーケストラのメンバー。
室内楽、古楽を中心に活動している。

ヴィオラ・ダ・ガンバⅠ(トレブル) 小池 香織



長野県伊那市出身。東海大学教養学部芸術学科卒業、同大学院芸術学研究科修了。
志水哲雄氏に師事。ドイツ・ブレーメン州立芸術大学古楽科に留学。ヒレ・ペアル氏に師事。「プレーマールロックコンサート」のメンバーとしてヨーロッパ各地で演奏活動を行う。一方でソリスト、通奏低音奏者として招かれ多数の演奏会に出演し研鑽を積む。国家演奏家資格を取得し卒業。2010年から日本を拠点として精力的に演奏活動を行っている。

ヴィオラ・ダ・ガンバⅡ(テノール) 坪田 一子



国立音楽大学楽理学科卒業。在学中よりヴィオラ・ダ・ガンバを神戸榎樹美氏に師事。ベルギーおよびポルトガルで、ヴィーラント・クイケン、パオロ・パンドルフ各氏のレッスンを受ける。卒業後は「神戸榎樹美ヴィオラ・ダ・ガンバ合奏団」で研鑽を積み、現在、上村かおり・福沢宏主宰の「ザ・ロイヤル・コンサート」、杉本ゆり主宰の「ラウデージ東京」メンバー。
上野学園中学・高等学校で古楽アンサンブルの授業を担当。

ヴィオラ・ダ・ガンバⅢ(バス) 江浦 仁美



バロック・チェロを鈴木秀美、ヴィオラ・ダ・ガンバを平尾雅子、チェンバロと通奏低音奏法を上尾直毅の各氏に師事。国内外のマスタークラスでヴィーラント・クイケン、フィリップ・ピエルロ氏らの指導も受ける。

アンサンブル・バッハ、バロックアンサンブル「ラ・クール・ミュージカル」のメンバーとしてチェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバの双方で活動している。

ヴィオラ・ダ・ガンバⅣ(バス) 阿部 恵美



東海大学大学院芸術学研究科音響芸術専攻修了。

「神戸榎樹美ヴィオラ・ダ・ガンバ合奏団」のメンバーとして1988 アメリカ公演、1990NHK・FMフレッシュコンサート等出演。

「ブランブルコンサート」「つくばろ」主宰。演奏活動を通して古楽啓蒙に努めている。

日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会、アメリカヴィオラ・ダ・ガンバ協会 各会員。茗溪学園非常勤講師。

ヴィオラ・ダ・ガンバⅤ(ヴィオローネ) 徳島 大蔵



米国インディアナ大学音楽学校大学院修士課程コントラバス科卒業。

ヴィオローネ(ヴィオール奏法)をウェンディ・ギレスピー氏に、バロック奏法をエヴァ・レジェーヌ氏に師事。帰国後は上野学園大学古楽研究室・櫻井茂氏の元で古楽器演奏、アンサンブルを学ぶ。現在、様々な古楽器アンサンブルや教会音楽、合唱・声楽曲の通奏低音奏者、コンソートのメンバーとして活躍中。

群馬県立西邑楽高等学校芸術科音楽コース非常勤講師。

チェロ 伊藤 恵以子



東京藝術大学卒業。同大学院博士課程修了。

チェロを三木敬之、レーヌ・フラショー、倉田澄子の各氏に師事。

パリ・エコールノルマルで学ぶ。

第48回日本音楽コンクール入選。Ensemble Deliceのメンバー。

訳書に「ポール・トルトゥリエ、チェリストの自画像」「メニューインとの対話」等がある。

コントラバス 栗田 涼子



東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修士課程修了。

コントラバスを、永島義男、黒木岩寿の各氏に師事。

2007年、「ミュージック・マスターズ・コース in かずさ」に参加

バッハ協会管弦楽団の公演に出演するなど、フリーの演奏家として活動中。

オルガン 堀江 和子(練習ピアニスト)



武蔵野音楽大学短期大学部ピアノ科卒業。

キリスト教音楽学校パイプオルガン科卒業。同研究科程修了。

ピアノを水本雄三、野村文子、オルガンを高橋靖子の各氏に師事。

茗荷谷キリスト教会オルガニスト・聖歌隊伴奏者。

日本オルガン研究会会員。

PROGRAM

Heinrich Schütz (1585-1672)

ハインリヒ・シュッツ

宗教合唱曲集より

Die mit Tränen säen (SWV378)

涙と共に種を蒔く者らは

Dieterich Buxtehude (1637-1707)

ディーテリヒ・ブクステフーデ

Membra Jesu nostri (BuxWV75) われらがイエスの御肢体

I .Ad pedes 御足について

1. ソナタ
2. 合唱 (全声部) (旧約聖書ナホム書 2 章 1 節)
3. アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)
a) ソプラノ I b) ソプラノ II c) バス
4. 合唱 (全声部) (第 2 曲の歌詞を反復)
5. 合唱 (全声部) (第 3a 曲の歌詞を反復)

II .Ad genua 御膝について

6. ソナタ (おのきのソナタ)
7. 合唱 (全声部) (旧約聖書イザヤ書 66 章 12 節)
8. アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)
a) テノール b) アルト c) ソプラノ I・II・バス
9. 合唱 (全声部) (第 7 曲の歌詞を反復)

III .Ad manus 御手について

10. ソナタ
11. 合唱 (全声部) (旧約聖書ゼカリヤ書 13 章 6 節)
12. アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)
a) ソプラノ I b) ソプラノ II c) アルト・テノール・バス
13. 合唱 (全声部) (第 11 曲の歌詞を反復)

IV .Ad latus 御脇腹について

14. ソナタ
15. 合唱 (全声部) (旧約聖書雅歌第 2 章 13、14 節)
16. アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)
a) ソプラノ I b) アルト・テノール・バス c) ソプラノ II
17. 合唱 (全声部) (第 15 曲の歌詞を反復)

休憩

Heinrich Schütz (1585-1672)

ハインリヒ・シュッツ

宗教合唱曲集より

So fahr ich hin zu Jesu Christ (SWV379)

私がいエス・キリストのもとへ往き

Dieterich Buxtehude (1637-1707)

ディーテリヒ・ブクステフーデ

Membra Jesu nostri (BuxWV75) われらがイエスの御肢体

V. Ad pectus 御胸について

18. ソナタ

19. アルト・テノール・バス (新約聖書ペトロの手紙第2章2、3節)

20. アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) アルト b) テノール c) バス

21. アルト・テノール・バス (第19曲の歌詞を反復)

VI. Ad Cor 御心について

22. ソナタ

23. ソプラノ I・II・バス (旧約聖書雅歌第4章9節)

24. アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) ソプラノ I b) ソプラノ II c) バス

25. ソプラノ I・II・バス (第23曲の歌詞を反復)

VII. Ad faciem 御顔について

26. ソナタ

27. 合唱 (全声部) (旧約聖書詩編31編17節)

28. アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) アルト・テノール・バス b) アルト c) 合唱 (全声部)

29. 合唱 (全声部) (アーメン)

(選曲 辻村順子)

プログラム・ノート

Dieterich Buxtehude = ディーテリヒ・ブクステフーデは随分と昔の時代の人で、彼の生歿年は 1637 年頃-1707 年だそうです。彼の時代をすぐに想像することができますか。ドイツではカトリックとプロテスタントが 30 年戦争を繰り広げ、イタリアではガリレオ・ガリレイが「地球は太陽の周りを廻っている」と言い張ったものだから 1633 年に宗教裁判を受ける羽目に陥っていました。そして日本ではブクステフーデが誕生したと推定される年に島原の乱がおき、前後して徳川幕府による鎖国が完成しました。その後、元禄文化に華やぐ江戸を 1703 年に元禄地震が襲い、1707 年には宝永地震および富士山の宝永大噴火がおこって徳川幕府が大打撃を被ったこの年にブクステフーデは死去しました。因みに赤穂浪士が吉良邸に討ち入りを敢行したのが 1702 年です。こうして日本の歴史と照らし合わせて調べているとけっこう面白いので、バッハ誕生の 1685 年をみてみたら、この年に犬公方といわれた將軍綱吉が生類憐みの令を出していました。さて、これくらいにしておきましょうか。こうして調子に乗ってあちこちに跳び続けていると、だんだんと日本史になってきてしまうのでブクステフーデに戻ります。

北ドイツにブクステフーデという都市があります。そこがブクステフーデー族の出身地だそうです。昔は住んでいる土地の名で人を呼ぶことがありました。「レオナルド・ダヴィンチ=ヴィンチ村のレオナルド」のように。しかし我がブクステフーデの生まれ育った場所はブクステフーデ市ではなく、当時のデンマーク領、現在はスウェーデンのヘルシンボリでした。父が、この地でオルガニストをしていたからです。子供の頃については、まるで資料が残っていないので想像をするしかないのですが、父親に音楽を師事しつつラテン語学校で教育を受けたのでしょう。やがて一人前の音楽家となった彼は、1668 年にハンザ同盟の大都市リューベックの聖マリア教会オルガニストに就任します。3 段鍵盤 54 ストップの大オルガンで有名だったこの教会の地位は、北ドイツで最も重要とされていました。つまり彼は 31 歳で押しも押されぬ当代一のオルガニストとなったのです。そして彼は生涯この地位にとどまり、北ドイツ・オルガン楽派の巨匠として活躍しました。また「夕べの音楽」と称する

音楽会を毎年 12 月頃に催して、リュubeck 市民の音楽生活に貢献したことも大きな業績でしょう。若きバッハはブクステフーデに会うために職場のアルンシュタット市からリュubeck 市まで 400 キロもの道程を徒歩旅行したといひます。そして「夕べの音楽」を聴きたいがために、有ろう事か無断で休暇を延長してしまい、アルンシュタット市の聖職会議に叱責されたという話は有名です。

ブクステフーデのこのような経歴から、彼のオルガン音楽は今日まで高い評価を受けてきました。けれども彼の作品は器楽曲、声楽曲にも及んでいます。特に宗教曲は今に伝わる曲だけで 114 を数え、失われてしまった曲も勘定に入ればもっと多くを作曲したはずで、教会オルガニストという彼の職責を考えれば宗教曲が多いのは当たり前かもしれませんね。ところで、ブクステフーデの宗教曲を私たちがこうして現在聴くことができるのも、じつは或る人のおかげなのです。その人の名は **Gustav Düben** =グスタフ・デューベン。スウェーデン宮廷楽長でした。彼は 1668 年頃からブクステフーデとの交友を始めたようです。そしてブクステフーデの大部分の宗教曲を収集しました。当時は楽譜を出版するのに大変な手間と費用がかかったので、大抵の作品は作りっぱなしというか、演奏の用が終われば作曲者の整理棚にでも積んで置かれるのが関の山でした。当然、このままでは年月が経つと共に作品は散逸していくわけです。こうして重要な作曲家の貴重な作品が沢山失われてしまったことでしょう。しかし地位があり、熱心な理解者でもあるデューベンのような人が作品を計画的に管理保管してくれれば、散逸の難を免れる確率が高くなります。殊にデューベンの息子がこのコレクションをスウェーデンのウプサラ大学に寄贈したことが大変に幸いでした。1889 年にウプサラ大学の古文書からこのコレクションが発見されたことで、ブクステフーデの宗教曲の再評価が始まったのですから。彼の宗教作品を代表する **Membra Jesu nostri BuxWV 75** =われらがイエスの御肢体 **BuxWV 75** はデューベンに献呈されています。このような大曲を献呈されるほどデューベンはブクステフーデに信頼されていたのですね。

さて、ブクステフーデの宗教曲の歌詞は大方がドイツ語です。それは彼の職場である聖マリア教会がルター派プロテスタント教会だったからです。しかし「われらがイエスの御肢体」はラテン語で歌われます。と言うことは、この曲が聖マリア教会の礼拝のために作られたのではなく、むしろ礼拝以外のコンサートの場、或いは私的な集まり（と言っても庶民ではなくて身分の高い人々の？）で受難節に演奏されたのではないかと想像されます。曲は7つの小カンタータで構成されていて、順番にイエスの「足」「膝」「手」「脇腹」「胸」「心臓」「顔」について省察する段取りになっているのですが、その順序は、十字架につけられたイエスの苦難のさまを足元から仰ぎ見ていく視点の動きを現しているかのようです。そして楽曲全体は美しく幻想的な雰囲気にも包まれています。殊にヴィオラ・ダ・ガンバの合奏を伴う第6部の響きは特筆に値します。ガンバが使用されるのはイエスの心臓について述べられるこの部のみであり、したがってブクステフーデはテキストのこの箇所特別な意義を付与したのだと推測できます。歌詞は聖書と Arnulf von Löwen = アルヌルフ・フォン・レーヴェン (1200年頃-1250年) の詩 *Salve mundi salutare* = ようこそ世の救い主 を基に、おそらくブクステフーデ自身の手によって編纂されました。

アルヌルフ・フォン・レーヴェンはブラバント公国（現在はベルギー）の Villers-la-ville = ヴィレラヴィル修道院に属するシトー会修道士です。1240年には修道院長になっているので偉い人だったのだと思います。ところが彼の作なる「ようこそ世の救い主」は長い間、Bernard de Clairvaux = ベルナルド・ド・クレルボー (1091年-1153年) という人の作とされてきて、17世紀においてはカトリックのみならずプロテスタントにも広く知られていたのです。たしかにこの人はシトー修道会士として、当時のフランス、現在はルクセンブルクのクレルボーに大修道院を創設したほどの人物でありました。だから考えようによっては、彼と間違われるのもアルヌルフ・フォン・レーヴェンにとっては名誉なことだったともいえます。が、やはり少し可愛そうな気がします。因みにバッハのマタイ受難曲で歌われる有名なコラール、Paul Gerhard = パウル・ゲルハルト作詩の *O Haupt voll Blut und Wunden* は「われらがイエスの御肢体」第7部「御顔について」の第3曲目の詩 *Salve caput*

cruentatum = ようこそ、血にまみれた御頭よ のパラフレーズです。また日本キリスト教団讃美歌にも 136 番「血しおしたたる主のみかしら」として収められています。

イエスに対する熱い思いをこめた調子で書かれているアルヌルフ・フォン・レーヴェンのこの詩をブクステフーデは独唱アリアとして作曲しました。しかし今回の演奏会では、この部分も私たち東京アマデウス合唱団が合唱ユニゾンで歌わせていただくことをお許してください。理由は...「諸事情が有る」のですが、じつはこれらの美しいアリアを自分たちで歌ってみたいというのが本音です。そして終わりにあたって、もう一つお許しを願いたいのですが、**Heinrich Schütz** = ハインリヒ・シュッツの **Geistliche Chormusik** = 宗教的合唱曲集から **Die mit Tränen säen SWV 378** = 涙と共に種を蒔く者らは **SWV 378** と **So fahr ich hin zu Jesu Christ SWV 379** = 私がイエス・キリストのもとへ行き **SWV 379** を、それぞれ「われらがイエスの御肢体」の冒頭と第5部の前に演奏させてください。バッハ以前のドイツ・プロテスタント教会音楽で最高の巨匠と讃えられるハインリヒ・シュッツ (1585年-1672年) は、中部ドイツのドレスデンで宮廷楽長の職に生涯をささげた人です。ここではシュッツについて詳しくご紹介する余裕はありませんが、ブクステフーデとは生まれ育った場所も時代も異なるので、その音楽もまったく違います。しかし私の個人的な思いで恐縮ですが、歌詞と音楽の心情が「われらがイエスの御肢体」と何か通じるように感じるのです。...でも、これも本音を言えば私たち合唱団が歌いたかったからではありますが...

水野克彦

Heinrich Schütz

Die mit Tränen säen SWV 378

Die mit Tränen säen,
werden mit Freuden ernten.
Sie gehen hin und weinen
und tragen edlen Samen
und kommen mit Freuden
und bringen ihre Garben.

ハインリヒ・シュッツ

涙と共に種を蒔く者らは SWV 378

(旧約聖書詩編 126 編5、6 節)

涙と共に種を蒔く者らは
喜びと共に収穫するであろう。
彼らはさまよい出て涙を流すが、
よい種を携えて
喜びと共に戻り、
収穫の束を持ち帰る。

Dieterich Buxtehude

Membra Jesu nostri BuxWV 75

ディーテリヒ・ブクステフーデ

われらがイエスの御肢体 BuxWV 75

I. Ad pedes

I 御足について

1. Sonata

1 ソナタ

2. Tutti (Nahum 2, 1)

2 全奏 (旧約聖書ナホム書 2 章 1 節)

Ecce super montes pedes
evangelizantis et annunciantis pacem.

見よ、御足が山を越えていく。
福音を説き、平和を告知しながら。

3. Aria (Arnulf von Löwen)

3 アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) Soprano I

a) ソプラノ I

Salve mundi salutare,
salve, salve Jesu care!
Cruci tuae me aptare
vellem vere, tu scis quare,
da mihi tui copiam.

ようこそ世の救いよ、
ようこそ、ようこそ愛しいイエスよ！
あなたの十字架に私を掛けたいと
誠に願います。あなたは何故かご存知です、
私にあなたの力を与えてください。

b) Soprano II

b) ソプラノ II

Clavos pedum, plagas duras,
et tam graves impressuras
circumplector cum affectu,
tuo pavens in aspectu,
tuorum memor vulnerum.

御足の釘を、過酷な一撃を、
そしてこれほどに酷く刻みつける御傷を
愛情をもって私は抱きしめる。
あなたの御姿におののき、
あなたの御傷に心を留めながら。

c) Basso

c) バス

Dulcis Jesu, pie Deus,
ad te clamo licet reus,
praebe mihi te benignum,
ne repellas me indignum
de tuis sanctis pedibus.

愛しいイエスよ、慈悲深い神よ、
たとえ罪人であっても私はあなたに叫ぶ。
寛大なあなたを私に示してください、
恥ずべき者の私を退けないでください、
あなたの聖なる御足から。

4. Tutti = 2

4 全奏 (第2曲の歌詞を反復)

5. Tutti = 3a

5 全奏 (第3a 曲の歌詞を反復)

II. Ad genua

II 御膝について

6. Sonata in tremulo

6 おののきのソナタ

7. Tutti (Jesaja 66, 12)

Ad ubera portabimini
et super genua blandientur vobis.

8. Aria (Arnulf von Löwen)

a) Tenore

Salve jesu, rex sanctorum,
spes votiva peccatorum,
crucis ligno tanquam reus,
pendens homo, verus Deus,
caducis nutans genibus.

b) Alto

Quid sum tibi responsurus,
actu vilis corde durus?
Quid rependam amatori,
qui elegit pro me mori,
ne dupla morte morerer.

c) Doi Soprani è Basso

Ut te quaeram mente pura,
sit haec mea prima cura,
non est labor nec gravabor,
sed sanabor et mundabor,
cum te complexus fuero.

9. Tutti = 7

III. Ad manus

10. Sonata

11. Tutti (Sacharja 13,6)

Quid sunt plagae istae
in medio manuum tuarum?

12. Aria (Arnulf von Löwen)

a) Soprano I

Salve Jesu, pastor bone,
fatigatus in agone,
qui per lignum es distractus
et ad lignum es compactus
expansis sanctis manibus.

b) Soprano II

Manus sanctae, vos amplector
et gemendo condelector,
grates ago plagis tantis,
clavis duris, guttis sanctis,
dans lacrimas cum osculis.

c) Alto, Tenore è Basso

In cruore tuo lotum
me commendo tibi totum,

7 全奏 (旧約聖書イザヤ書 66 章 12 節)

あなたがたは御乳房へと運ばれて、
御膝の上であたながたを楽しませるであろう。

8 アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) テノール

ようこそイエスよ、聖徒らの王よ、
願いに応えて与えられる罪人の希望よ。
十字架の木に、あたかも罪人のように
掛かっているお方よ、まことの神、
くずおれそうな御膝に揺らぐお方よ。

b) アルト

私はあなたに何を答えようとしているのか、
つまらない行いと粗野な心によって。
私は愛する人に何を報いるべきか。
私に代わって死ぬことを選ばれたお方、
私が二重の死を死ななくてもよいようにと。

c) 2つのソプラノとバス

清い心であなたを探し求めたい、
これが私の第一の思いでありますように。
それは労苦ではなく煩わしくもないであろう。
そうではなく私は癒され、清められるであろう、
私があなたを捕らえてしまった時には。

9 全奏 (第7曲の歌詞を反復)

III 御手について

10 ソナタ

11 全奏 (旧約聖書ゼカリヤ書 13 章 6 節)

あなたのその御傷は何か、
あなたの御手の真中のその御傷は

12 アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) ソプラノ I

ようこそイエスよ、よき羊飼いや、
戦いに疲れたお方。
あなたは木によって引き裂かれて
そして木につながれた、
聖なる御手が伸ばされて。

b) ソプラノ II

聖なる御手よ、私はあなたを包み、
そして悲嘆に暮れつつも喜びます。
私はこれほど多くの御傷に感謝をします。
硬い釘に、聖なる御血の滴りに、
接吻と共に涙を注ぎつつ。

c) アルト、テノールとバス

流れるあなたの御血に浸されつつ
私は自分をすべてあなたに委ねます。

tuae sanctae manus istae
me defendant, Jesu Christe,
extremis in periculis.

13. Tutti = 11

IV. Ad latus

14. Sonata

15. Tutti (Hohelied 2, 13+14)

Surge, amica mea, speciosa mea,
et veni, Columba mea
in foraminibus petrae,
in caverna maceriae.

16. Aria (Arnulf von Löwen)

a) Soprano I

Salve latus salvatoris,
in quo latet mel dulcoris,
in quo patet vis amoris,
ex quo scatet fons cruoris,
qui corda lavat sordida.

b) Alto, Tenore è Basso

Ecce tibi appropinquo,
parce, Jesu, si delinquo,
verecunda quidem fronte,
ad te tamen veni sponte
scrutari tua vulnera.

c) Soprano II

Hora mortis meus flatus
intret, Jesu, tuum latus,
hinc expirans in te vadat,
ne hunc leo trux invadat,
sed apud te permaneat.

17. Tutti = 15

Heinrich Schütz

So fahr ich hin zu Jesu Christ SWV 379 私がイエス・キリストのもとへ行き SWV 379

(Nikolaus Herman =ニコラウス・ヘルマン Wenn mein Stündlein vorhanden ist =私にまだ時があつての第5節 第5節は後になってヘルマンの詩に無名人が付け加えたものである)

So fahr ich hin zu Jesu Christ,
mein Arm tu ich ausstrecken,
so schlaf ich ein und ruhe fein,
kein Mensch kann mich aufwecken,
denn Jesus Christus, Gottes Sohn,
der wird die Himmelstür auf tun,

あなたの聖なるその御手が
私を護ってください、イエス・キリストよ、
外よりの危機に際して。

13 全奏 (第11曲の歌詞を反復)

IV 御脇腹について

14 ソナタ

15 全奏 (旧約聖書雅歌 第2章13、14節)

立ち上がりなさい、我が友よ、私の美しい人よ。
そして来なさい、私の鳩よ。
岩の穴の中の、
壁の窪みの中の愛しい人よ。

16 アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) ソプラノ I

ようこそ、救い主の御脇腹よ。
その中に甘い蜂蜜が隠れ、
その中に愛の力が広がり、
そこから血の泉が湧き出て、
汚れた心を洗い清める。

b) アルト、テノールとバス

ご覧ください、私はあなたに近づく、
ご同情ください、イエスよ、私が罪を犯しても。
げにも慎み深い面持ちで
あなたのところへ私は自ら進んで参りました、
あなたの御傷を見届けるために。

c) ソプラノ II

死の時に私の息が
イエスよ、あなたの御脇腹へ入りますように。
息絶えつつもあなたへと歩み寄りますように。
獐猛な獅子が襲わないようにして、
あなたのもとに留まらせてください。

17 全奏 (第15曲の歌詞を反復)

休憩

ハインリヒ・シュッツ

私がイエス・キリストのもとへ行き、
自分の腕を広げて
眠りにつき、静かに休めば、
誰も私の目を覚まさせることはできない。
なぜならイエス・キリスト、神の子である
彼が天の扉を開けて、

mich führen zum ewigen Leben.

私を永遠の命へと導くであろうから。

Dieterich Buxtehude

ディーテリヒ・ブクステフーデ

Membra Jesu nostri BuxWV 75

われらがイエスの御肢体 BuxWV 75

V. Ad pectus

V 御胸について

18. Sonata

18 ソナタ

19. Voci Alto, Tenore è Basso

19 アルト、テノールとバス

(1. Ptrus 2,2+3)

(新約聖書ペトロの手紙一 第2章2、3節)

Sicut modo geniti infantes rationabiles,
et sine dolo concupiscite,
ut in eo crescatis in salutem.
Si tamen gustatis,
quoniam dulcis est Dominus.

ちょうど生まれただばかりの賢い幼児のように
あなたがたは邪心なく熱望しなさい、
その御胸の中で健やかに育つために。
やはりあなたたちが味わえば、
主は甘いのであるから。

20. Aria (Arnulf von Löwen)

20 アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) Alto

a) アルト

Salve, salus mea, Deus,
Jesu dulcis, amor meus,
salve, pectus reverendum,
cum tremore contingendum,
amoris domicilium.

ようこそ、私の救い主、神よ、
甘きイエスよ、私の愛する人よ。
ようこそ、敬われるべき御胸よ、
おののきつつ触れられるべき
愛のすみかよ。

b) Tenore

b) テノール

Pectus mihi confer mundum,
ardens, pium, gemebundum,
voluntatem abnegatam,
tibi semper conformatam,
juncta virtutum copia.

私に清らかな御胸を授けてください、
燃えつつ慈悲深くうめく御胸を。
自制する意思を、
常にあなたに一致させた意思を授けてください、
美德の充満に結ばれて。

c) Basso con Stromenti

c) バス、器楽伴奏と共に

Ave, verum templum Dei,
precor miserere mei,
tu totius arca boni,
fac electis me apponi,
vas dives Deus omnium.

ようこそ、神のまことの神殿よ、
私を憐れんでくださるようにお祈りします。
あなた、完全な善の箱よ、
私を選ばれたものとして任命してください、
豊かな器よ、すべての人々の神よ。

21. Tutti = 19

21 全奏 (第19曲の歌詞を反復)

VI. Ad Cor

VI 御心について

22. Sonata

22 ソナタ

23. Doi Soprani è Basso (Hohelied 4,9)

23 2つのソプラノとバス (旧約聖書雅歌第4章9節)

Vulnerasti cor meum,
soror mea, sponsa.

あなたは私の心を傷つけた、
私の姉妹よ、許嫁よ。

24. Aria (Arnulf von Löwen)

24 アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) Soprano I

a) ソプラノ I

Summi regis cor, aveto,
te saluto corde laeto,

至高の王の御心よ、ようこそ、
あなたに私は喜ばしい心で挨拶をします。

te complecti me delectat
et hoc meum cor affectat,
ut ad te loquar animes.

b) Soprano II

Per medullam cordis mei,
peccatoris atque rei,
tuus amor transferatur,
quo cor tuum rapiatur
languens amoris vulnere.

c) Basso

Viva cordis voce clamo,
dulce cor, te namque amo,
ad cor meum inclinare,
ut se possit applicare
devoto tibi pectore.

25. Tutti = 23

VII. Ad faciem

26. Sonata

27. Tutti (Psalm 31, 17)

Illustra faciem tuam super servum tuum,
salvum me fac in misericordia tua.

28. (Arnulf von Löwen)

a) Alto, Tenore è Basso con Violini

Salve, caput cruentatum,
totum spinis coronatum,
conquassatum, vulneratum,
arundine verberatum,
facie sputis illita.

b) Alto

Dum me mori est necesse,
noli mihi tunc deesse,
in tremenda mortis hora
veni, Jesu, absque mora,
tuere me et libera.

c) Tutti

Cum me jubes emigrare,
Jesu care, tunc appare,
o amator amplectende,
temet ipsum tunc ostende
in cruce salutifera.

29. Tutti

Amen.

あなたを抱きしめることが私を喜ばせます。
そしてこのように私の心は熱望します、
あなたにお話しできる勇気をくださるようにと。

a) ソプラノ II

私の心の奥底を通して、
罪人であり被告人である私の心の奥底を通して、
あなたの愛が伝わるに違いない。
あなたの御心が強奪されることによって、
愛の傷に弱りつつ。

c) バス

心の肉声で私は叫びます、
愛しい心よ、あなたを確かに私は愛します、
私の心の方へあなたの御心が傾いてください。
私の心が自分を持たせかけられるように、
あなたに捧げられた胸によってあなたへと。

25 全奏 (第23曲の歌詞を反復)

VII 御顔について

26 ソナタ

27 全奏 (旧約聖書詩編31編17節)

御顔をあなたのしもべの上に照らしてください、
私をあなたの憐れみのうちにお救いください。

28 アリア (アルヌルフ・フォン・レーヴェン)

a) アルト、テノールとバス、ヴァイオリンと共に

ようこそ、血にまみれた御頭よ、
茨の冠で全体を飾られた御頭よ、
激しく揺すられ、傷つけられた御頭よ、
葦の棒で打たれた御頭と、
唾に塗りたくられた御顔よ。

b) アルト

もしも私が必ず死ぬさだめなら、
その時は私を見捨てないでください。
死の恐ろしい時に、
来てください、イエスよ、遅れないで。
私を見守り、そして解放してください。

c) 全奏

行くようにとあなたが私にお命じになる時、
最愛のイエスよ、その時に現れてください。
おお、抱擁したい愛する人よ、
その時あなた御自身から自らを現してください、
幸福をもたらす十字架上で。

29 全奏

アーメン。

演奏会の記録

	開催年月	主な演奏曲目	指揮	会場
第1回	1981.02	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	寺村博司	石橋メモリアル
第2回	1981.11	ヘンデル(メサイア)	渡辺央己	中央会館
第3回	1982.11	フォーレ(レクイエム)、ジョスカン・デ・プレ、シュツツ	鈴木 優	東京カテドラル
第4回	1983.09	モーツァルト(戴冠式ミサ)、ヴィクトリア	黒岩英臣	東京カテドラル
第5回	1984.09	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	黒岩英臣	東京カテドラル
第6回	1985.10	J.S.バッハ(カンタータ106)、ブクステフーデ、ハスラー	宮本昭嘉	石橋メモリアル
第7回	1986.10	モーツァルト(グローセミサ)、ヴィクトリア	鈴木 優	練馬文化センター
第8回	1987.10	シュツツ、ハスラー(ミサ・セクンダ)	鈴木 優	石橋メモリアル
第9回	1988.12	モーツァルト(ヴェスペレ339)、J.ハイドン	齋藤明生	駒場エミナス
第10回	1989.11	モーツァルト(レクイエム<バイヤー版>)	齋藤明生	練馬文化センター
春の小演奏会	1990.05	ジョスカン・デ・プレ(パンジェ・リングワ)、ハスラー	齋藤明生	石橋エオリアン
第11回	1991.02	モーツァルト(リタニア243)、J.M.ハイドン(ヴェスペレ)	齋藤明生	石橋メモリアル
第12回	1991.11	モーツァルト(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ)	齋藤明生	川口リリアホール
第13回	1992.11	シャルパンティエ(戴冠式)、シュツツ、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第14回	1993.11	モーツァルト(ミサ・プレヴィス275)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
15周年記念	1994.11	モーツァルト(レクイエム<ドルース版>)、渋谷混声と合同	齋藤明生	新宿文化センター
第15回	1995.10	J.S.バッハ(カンタータ182)、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第16回	1996.11	モーツァルト(ヴェスペレ339)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
第17回	1997.10	モーツァルト(ミサ・ソレムニス337、テデウム・ラウダムス)	齋藤明生	石橋メモリアル
第18回	1998.10	J.S.バッハ(カンタータ61・196)、D.スカルラッチェ	齋藤明生	石橋メモリアル
第19回	1999.10	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、J.M.ハイドン	齋藤明生	石橋メモリアル
斉藤先生追悼	2000.07	ハスラー、メンデルスゾーン、ホミリウス	水野克彦	同仁キリスト教会
クリスマス	2000.12	四つのアヴェマリア(7カデル、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、ルストリーナ)	水野克彦	旧上野奏楽堂
第20回	2001.11	モーツァルト(トリニターティス・ミサ)、J.ハイドン	水野克彦	石橋メモリアル
第21回	2002.10	ドイツ・バロック(J.C.F.バッハ、シュツツ、ブクステフーデ)	水野克彦	所沢文化センター
第22回	2003.11	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、アルブレヒツベルガー	水野克彦	ルテル布谷センター
第23回	2004.10	D.スカルラッチェ、パレストリーナ、モンテヴェルディ	水野克彦	カトリック麻布教会
第24回	2005.11	シュツツ、テレマン、ブクステフーデ(カンタータ)	水野克彦	カトリック麻布教会
第25回	2006.11	レヒナー(受難曲)、ゼレンカ(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第26回	2007.10	ブクステフーデ(カンタータ6曲)	水野克彦	カトリック麻布教会
第27回	2008.11	5人のヨーハン(J.S.バッハとその親戚4人)	水野克彦	カトリック麻布教会
第28回	2009.10	メンデルスゾーン、J.ハイドン(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第29回	2010.11	シュツツ、シャイン、シャイト、ブクステフーデ、ブルーンス	水野克彦	同仁キリスト教会
第30回	2011.10	歴代「トーマス・カントル」のバッハ以外の名曲集	水野克彦	日暮理サニーホール
第31回	2012.10	シュツツ、ブクステフーデ(メンブラ・イエズ・ノストリ)	水野克彦	同仁キリスト教会
第32回	2013.09	15~16世紀のクリスマスの曲(予定)	水野克彦	同仁キリスト教会

東京アマデウス合唱団のご案内 (2012.10 現在)

少人数に適したルネッサンスやバロック時代の宗教曲を積極的に取上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い隠れた名曲を歌ってみたい方をお誘いしております。

今後の活動予定は下記の通りですが、少人数のバロックのアンサンブルと一緒に楽しみたい方や興味のある方がおられましたら、是非一度下記の練習会場にお出掛け頂き、見学だけでも大歓迎ですので練習状況等をご覧頂きたいと願っております。

下記ホームページをご参照の上、「護国寺」の同仁キリスト教会内の「美登里幼稚園」へお出掛けいただきたく、団員一同期待してお待ちしております。

(事務局 大久保ルミ子)

<http://homepage2.nifty.com/Amadeus/>

来年の演奏会「第 32 回定期演奏会」

「日 時」 2013 年 11 月(予定)

「会 場」 同仁キリスト教会礼拝堂(予定)

「演奏曲目」 15～16 世紀のクリスマスの曲(予定)

参加ご希望の方へ(下記へ電話等でご連絡の上、お出で下さい)

お問い合わせ先 辻村 順子 048-476-4056

大久保ルミ子 03-3960-7714

練習日 毎週水曜日 午後 6 時半～9 時
練習場所 同仁キリスト教会美登里幼稚園 2F
指導者 水野克彦
会 費 月 額 5 千円(学生半額)
入会金 1 千円

(練習場所への交通案内)右図参照

* 地下鉄有楽町線

「護国寺」駅下車 6 番出口から徒歩 5 分

* JR 山手線「目白」駅よりバスで

「目白台 3 丁目」下車 徒歩 3 分



● 地下鉄有楽町線「護国寺」駅下車、6番出口から徒歩5分
● JR山手線「目白」駅よりバスで「目白台3丁目」下車、徒歩3分

東京アマデウス合唱団

Sop1 辻村 順子、中西亜紀子

Sop2 繁松 緑、平石 幸枝、松木 香織

Alt 大久保ルミ子、大友 美佐、大庭裕子、
宮崎 米子、堀江和子（兼オルガン伴奏）

Ten 小沢 仁、片岡 繁

Bass 大庭敏彦、柿沼 晝、山村道男



第 30 回定期演奏会(2011. 10.10) 日暮里サニーホール

